

中野区教育委員会会議録 平成22年第24回定例会

○開会日 平成22年8月6日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時00分

○閉 会 午前11時04分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(8名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市
統括指導主事	杉 山 勇

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	飛鳥馬 健 次
-----	---------

委員

大島 やよい

○傍聴者数 13人

○議事日程

[議決案件]

日程第1 第32号議案 平成23年度使用教科用図書の採択について

日程第2 第33号議案 教科書採択に関わる教育委員会会議録の公開について

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 7 / 16 第七中学校安全教育推進校公開授業について
- ・ 7 / 16 本三宮前町会防災訓練について
- ・ 7 / 22 岩井臨海学園前検診（谷戸小学校）について
- ・ 7 / 29 東京都健康づくりフォーラムについて
- ・ 7 / 31、8 / 1 日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会について
- ・ 8 / 3 沼袋アンブレラハウス夏休みボランティアについて
- ・ 8 / 6 中野区国際交流協会夏休み子ども日本語クラスについて

(2) 事務局報告事項

(なし)

中野区 教育委員会
第24回定例会
(平成22年8月6日)

午前10時00分開会

飛鳥馬委員長

おはようございます。

ただいまから教育委員会第24回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりでございます。

また、教科書採択にかかわる職員としまして統括指導主事に出席を求めていますので、ご了承ください。

それでは、日程に入ります。

<日程第1>

飛鳥馬委員長

日程第1、第32号議案「平成23年度使用教科用図書の採択について」を上程いたします。

議案の説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、第32号議案「平成23年度使用教科用図書の採択について」、ご説明申し上げます。

本議案は、平成23年度に使用いたします小学校、中学校の教科用図書の採択をお願いするものでございます。小学校と小学校の特別支援学級の教科書、中学校と中学校の特別支援学級の教科書というふうになります。

それでは初めに、小学校教科用図書の採択協議の経過について、また、採択協議の内容についてご報告をいたします。

これまで3回の教育委員会臨時会を開催していただきまして慎重に採択協議を進めていただいたところでございます。今回の小学校の教科用図書採択では、11種目につきまして、計274冊の教科書をごらんいただき、検討をいただいたところでございます。採択にかかわる臨時会では、冒頭に教科用図書選定調査委員会の委員長より選定調査報告を受けました。また、私のほうから採択協議までの経過、教科用図書調査研究会の研究結果の報告、学校意見、児童意見、区民意見、要望等の報告を行ったところでございます。

次に、採択協議の内容についてご報告をいたします。

3回の教育委員会臨時会における協議内容について、この後、種目ごとにご報告をいた

します。種目ごとの報告の後、委員より補足をお願いできればと思っております。

それでは、国語でございます。

学習指導要領の視点より、特に言語活動の充実と読むことの学習について議論がなされました。その中で、教育出版と光村図書の2者について議論が集中いたしました。特に教育出版では、言語活動と読み物教材のバランスがよくできていること、初任者にとっても使いやすいのではないかという意見が出されました。光村図書では、児童が引きつけられる教材が多く扱いやすい、また、中野区の児童の実態である「読む力をつけるという課題」に適しているという意見が出されたものでございます。協議の結果、児童にとってより扱いやすく実態に即しているという観点から、光村図書が採択候補となりました。

国語については以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、委員から補足の説明がありましたらお願いします。

高木委員

今、指導室長からご説明がありましたが、国、あるいは東京都、中野区が行っている学力調査の結果から言いますと、中野区の児童につきましては特に読むことに課題があるのではないかというのが我々の認識でございます。光村図書の教材については、名作と言われるものが多く、児童にとっても学習しやすい。いわゆる教科書らしい教科書だなということでございます。他社は1から6年生すべて上下巻の12冊で、光村図書に関しては5・6年は上下に分かれていなくてちょっと厚い感じがするのですが、これもちょっと意見が出たのですけれども、重ねてみると、むしろ光村のほうが薄いので、厚さ的にも、直感的なところよりはそうでもないのかなと。今の国語で求められる言語活動についても、まず子どもたちが教材を読み込んで、その中で学習を広げていくという展開が十分考えられるのではないかとということでございます。また、光村図書の教科書につきましては、本文の文字の大きさに対して行間の広さというのも適切で、学習の中で線を引いたり、書き込みをしたりということも十分できるので扱いやすいのではないかとということで、これを採択候補にしたというところでございます。

以上です。

指導室長

それでは、続きまして、書写でございます。

書写につきましては、特に毛筆の導入と毛筆の指導について議論がなされました。その

中で、東京書籍と光村図書の2者に議論が集中いたしました。2者とも、導入時の用具の使い方、姿勢の指導等が丁寧である、運筆がわかりやすい等の意見が出されました。協議の結果、朱墨等による運筆がよりわかりやすいなどの視点から、東京書籍が採択候補となりました。

書写については以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、書写について委員から補足説明がありましたらお願いします。

大島委員

今、指導室長からもお話しありましたけれども、我々委員の間でも、書写では特に毛筆の導入部分の指導についての扱い方が非常に重要であるというふうに思っております。各教科書を比べてみますと、導入部の用具の説明とか扱い方、書くときの姿勢についての説明、基本的なとめ・はねというような毛筆の運筆の基本的な知識についての説明の仕方というところなどに主に重点を置いて見たわけでございます。その点が比較的あっさりしていて、後は先生の指導に任せているというような教科書もございましたけれども、今話題に出ました二つの教科書は比較的丁寧に書いてある。毛筆というのは、3年で初めて学校でやるという生徒が多いだろうということ。それから、毛筆の経験が少ないという先生もかなりいらっしゃるのではないかとというような点から、やはり教科書に丁寧に書いてあるということが生徒にとっても教師にとっても扱いやすいのではないかと。このようなことで見比べてみました結果、東京書籍のものが非常に丁寧に書いてありまして見やすいということもありまして、適切ではないかというふうに考えた次第でございます。

指導室長

それでは、社会科でございます。

社会科につきましては、特に学習指導要領改訂の視点から、考えたことを表現する力や問題解決型の学習について議論がなされました。その中で、東京書籍と教育出版の2者に議論が集中したところでございます。2者とも、内容が充実している、児童の思考に沿った単元構成でわかりやすいということがございまして、中でも教育出版が採択候補となりました。

社会科については以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、委員のほうから補足説明があったらお願いします。

山田委員

教科書につきましては、3・4年生では上下巻、あと、5年生、6年生に分かれてつくられている教科書がございます。中野区においては、3・4年について、地域学習として副読本が併用されていることもありまして、主に5年、6年を中心に協議をした経過がございます。採択候補となりました教育出版でございますけれども、例えば気候と地域を対比する四つの地域を左右のページを使って表現されている。例えば5月のプール開きと5月のスキー場が対比されているとか、高地の人たちの暮らしと低地の人たちの暮らしが対比されているとか、こういった子どもたちにとってわかりやすい表現がなされております。また、例えば地図記号の説明が丁寧であり、コンパクトに記載されているということから、児童にとっても学習しやすいのではないかとということが意見として出ておりました。新たに加わりました学習の地球儀の扱いについては、6年生の下巻で、世界と日本のつながりということで、地球儀を活用して国土学習を世界の中の日本と対比して取り上げている点などがすぐれているという意見がありました。このような点から、児童にとって学びやすい教科書として、教育出版が最適ではないかという結論に至りました。

以上です。

指導室長

続きまして、地図でございます。

地図帳は、学習の補助的な教材として、見やすいという点と、将来にわたり地図を活用できる資質の育成が図れるかという点で議論がなされました。東京書籍につきましては、特定の地域で学びやすさがあるという意見がございました。帝国書院は、地図の約束がわかりやすい、地図の活用に必要な縮尺の統一がなされている、索引が見やすいという意見が出されました。地図が見やすいこと、必要な資質の育成が図られるという点から、帝国書院が採択候補になりました。

地図については以上でございます。

飛鳥馬委員長

では、委員のほうから補足説明があったらお願いします。

教育長

今、指導室長からの説明もありましたが、地図帳につきましては4年生から活用します。地図については、今後、児童が、社会科だけではなく、他の教科や上級学校に進学しても活用できる力を身につけさせることが重要だということは、委員全体の共通認識にござい

ました。また、人にとって生涯を通じて地図を活用して生活をしていくということになりますので、その導入時期はとても大切にしていきたいというふうに考えています。その点、採択候補に挙げられました帝国書院は、地図を読むための説明や活用するための手だてが明確であること、特に縮尺が統一をされていることは、地図を相互に比べる際に非常に重要だというふうな議論がありました。地図そのものも見開きページが多く扱いやすいと考えているところです。地球儀の見方・使い方もわかりやすく紙面を割いていますし、世界の中の日本の位置を理解させやすい表現もありました。地図帳の約束事、地図帳の使い方なども丁寧に表現をされておりました。

以上です。

指導室長

続きまして、算数でございます。

算数は、算数的な活動の充実と表現や思考力の育成について議論がなされました。中でも、東京書籍、大日本図書、学校図書の3者について議論が集中いたしました。抽象的な概念の理解ですとか、児童の思考を生かした単元構成でわかりやすいという点から、東京書籍が採択候補となりました。

算数については以上でございます。

飛鳥馬委員長

では、算数については私のほうから補足をいたします。

算数は、中野の子どもたちの学力を考えてみますと、比較的抽象的な思考が苦手であると考えられるというのがあります。ですから、できるだけ抽象的な思考力がつくようなことを一つ重点にしました。それから、最近言われている算数の中でも表現力ですね。あるいは、また新しく最近言われているスパイラルな学習、そういう幾つか特色がありますが、どの教科書も取り入れられていて、非常に丁寧に作られているなという感想です。

その中でも、東京書籍を採択候補にしたのですが、例えば1年生の最初の教科書で、具体的なものを使って、タイルなどもあったり、いろいろなものがありますが、これが非常に見やすくわかりやすい。ほかの教科書もないのではなくて、ほとんど全部入っているのですが、導入のところで子どもに興味を持たせるような工夫があるなというような気がしました。特に今「抽象的な」という話をしましたがけれども、できるだけ子どもたちの身近な生活と結びついたものが題材に選ばれていることが大事だと思ひまして、そういう題材が入っているかどうか。あるいは、写真等もそういうものから課題を見つけられるように

なっているかどうかということをお考えすると、ほかの教科書もあるのですが、東京書籍も結構入っている。それから、スパイラル的な学習も、ちょっと弱い教科書もありますが、3社、4社入っているということで、そういうことを比べてみました。

全体的に東京書籍がいいと判断したのは、今言った1年生の導入の部分の、具体的なものを使うとか、生活に密着したところは課題を引き出せるようになっていたりとか、あるいはまた、表現力と言っていいのでしょうか、ノート書き方なども、5年生の下などだと、ほかの教科書にもありますが、「算数マイノート」をつくらうというようなものがあったり、そういうものを特別に設けている。あるいは「学び方のページ」とか、そういうのがありますので、全体として学習の流れが子どもたちにわかりやすいのかなど。図とか表とかも結構工夫されていたり、最初に申し上げた抽象的な思考力を育てたり、あるいは最後に申し上げた主体的な学習といいますか、子どもたちが教わるだけではなくて、自分たちから学べるように、そう使えるような教科書ということで、ほかの教科書もたくさん工夫されているのですが、東京書籍がよろしいのかなというので採択候補にいたしました。

以上です。

指導室長

続きまして、理科でございます。

理科は、問題解決型の学習展開と実感を伴った理解という理科の教科の特性に基づいて議論がなされました。その中で、東京書籍と教育出版の2者に議論が集中いたしました。問題解決学習の流れを児童の思考に沿って丁寧に扱っている点、板書や記録カードの丁寧さ等の観点から、教育出版が採択候補となりました。

理科については以上でございます。

飛鳥馬委員長

委員の補足説明をお願いします。

大島委員

理科につきましては、学習指導要領でも主体的に問題を見出し解決する問題解決型の学習というのを提示するというのが教科書に求められているわけです。その問題解決能力を身につけるといふ点から、児童に「自分で主体的に考える」といふ児童の思考の流れに沿ったきめ細かなステップを示しているという点が教科書においても求められるのではないかなと思われるわけです。その点、教育出版の教科書は、児童のそういう学習の流れ、思考の流れというのを大事にして、スモールステップで解説しているという点が大変適切な

のではないかと。

一例ですけれども、5年生のところで発芽の単元があるわけですから、発芽をするのには、水・空気・温度という条件が必要だということなのですが、それを実験で確かめようという単元なのです。そういうところのそれぞれの条件についても一つずつ丁寧に、水はどうか、空気はどうか、温度はどうかというようなことも大変きめ細かく、わかりやすく解説しているというような点が好感が持てるということでございます。

それと、実感を伴った学習という点ですけれども、教育出版のものは、身近な生活から学習が始まるというような工夫がされていて、理科と生活とのかかわりということがわかりやすいように工夫されているというふうに思いました。

それから、写真とか図が大変バランスよく配置されていて見やすいという点。それから、問題・実験・結果・まとめというような流れが明確に示されていて、児童の思考の流れに沿ってまとめていけるような工夫がされているというふうに感じられまして、このような点が我々が評価した点でございます。

指導室長

続きまして、生活科でございます。

生活科は、具体的な活動と体験的な学習を重視し、児童の意欲や知的気づきの喚起について議論がなされました。その中で、東京書籍、学校図書、教育出版の3者に議論が集中をいたしました。その中で、活動の全体像が把握しやすい、記録カードが知的気づきにつながる等の観点から、教育出版が採択候補となりました。

生活については以上でございます。

飛鳥馬委員長

生活について委員から補足説明があったらお願いします。

高木委員

生活科につきましては7社ですね。9科目11種目中、発行する出版社が最も多いというところで、選ぶのになかなか苦労したところでございます。

生活科に関しては、人とのかかわりと、自然とのかかわり、大きくこの二つがあるのですが、この二つの扱いが丁寧にバランスがいいということが重要だと我々は認識しました。採択候補になりました教育出版に関しましては、自然とのかかわり、人とのかかわり、さらに安全等の内容についてもバランスよく充実しているのではないかと。あと、1年次の導入の部分につきましても、自立を目指す総合的な学習に取り組むようなところの内容が

実現できる表現になっているのではないのかなど。あと、自然とのかかわりの部分につきましては、都市部にある中野の子どもたちが実感できるような動物、特に昆虫ですね。あと、植物。今、都市部でも違和感なく想像できるようなものが扱われているなど感じました。

あと、観察カードの学習で、多くの出版社がアサガオを扱って、児童の観察カードというのを例示で挙げているのですが、これにつきまして教育出版のものは一点一点が非常に大きく、低学年、1・2年生でも見やすく、児童の実態に合っていて非常にわかりやすいと考えたので、これが採択候補となったところでございます。

以上です。

指導室長

続きまして、音楽でございます。

音楽は、指導内容が詳細であるかという点、情操を養うという点から議論がなされました。その中でも、東京書籍と教育芸術社の2者について議論が集中いたしました。歌唱教材の充実とリコーダー学習の指導の丁寧さ等の観点から、教育芸術社が採択候補となりました。

音楽については以上でございます。

飛鳥馬委員長

委員から補足説明がありましたらお願いします。

山田委員

音楽は、東京書籍、教育出版、教育芸術社の3社から発刊されております。今回の改訂の趣旨の中では、歌唱、器楽、音楽づくりという表現の領域、そして鑑賞の領域、また共通の教材として、例えば「春の小川」みたいな共通事項などが教科書として掲載されております。中野区では合唱コンクールが開催されていまして、6年生などでは鼓笛隊などを使っての音楽教育が盛んな区でもあります。そういった意味で、例えばリコーダーの指導ということにひとつ注目して、3社の教科書を比べたわけでございます。

教育委員会の中で採択候補となりました教育芸術社につきましては、特にリコーダーの指導が非常に丁寧に解説されている点、また、3年生の導入の段階で指づかいがわかりやすく掲載されておりますし、特に演奏の中でタンギングという奏法について、たしか赤い帯で示されていて、視覚的にも説明があり、児童にとって学びやすい教材ではないかという意見が多数出ておりました。

また、合唱曲や鑑賞曲の選曲がよい点や歌唱教材がそのイメージを広げる工夫があるということで、全体のバランスがとれている。また、本区では特に専科の教員が多いという特徴もありますので、教員が教えやすいということもございまして、教育芸術社がすぐれているのではないかという意見となりました。

以上でございます。

指導室長

続きまして、図画工作でございます。

図画工作では、特に表現力の育成や感性、そして作品をつくりたいという児童の意欲が喚起できるかどうかという点で議論がされました。その中で、東京書籍と開隆堂の2者に議論が集中いたしました。例示されている作品が児童にとって親しみやすく、活動の見通しが持ちやすいなどの観点から、開隆堂が採択候補となりました。

図工については以上でございます。

飛鳥馬委員長

では、委員から補足説明がありましたらお願いします。

教育長

図画工作は、中野区の実情を考えますと、学級担任が多く指導する低学年の扱いが特に重要だという議論がありました。開隆堂の教科書については、目次に活動に必要な内容が示されていたり、身近な材料の作品で工夫をされていたり、写真や作品が大きく表示され、子どもたちにわかりやすい工夫がされているというふうに感じています。また、文章の量も多過ぎず、見やすいのが特徴で、児童にとって扱いやすい教科書だというふうな意見もありました。

また、巻末に道具の扱い方がわかりやすく表現されていまして、安全な取り扱い方を丁寧に指導してあります。指導室長から冒頭に説明がございましたように、作品をつくりたいという児童の意欲の喚起が大事ではないかという観点から見ますと、掲載されている作品を見てイメージがわきやすい、それから、作業の説明がわかりやすく、子どもたちがつくりたいという意欲のわく写真や絵が多数掲載されているというふうに思われました。

以上です。

指導室長

続きまして、家庭でございます。

家庭科は、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得、また実践的な態度の

育成という点で議論がなされました。実習について活動の流れが把握しやすいこと、食育や環境教育への配慮が充実している等の観点から、東京書籍が採択候補となりました。

家庭科については以上でございます。

飛鳥馬委員長

家庭科につきましては私のほうから補足説明をいたします。

家庭科は、調理とか住居とか衣服とかいう分野がありますが、今、指導室長からも言われておりましたように、現代的な課題にどれだけこたえられるかというのが非常に大事なのかなというふうに思っていました。食育も非常に関係あるだろうと思いますし、今盛んに「エコ」「エコ」と言っていますけれども、住居との関係でそういうのがどうなっているか。あるいは環境の問題もあります。衣服についてはいろいろ問題があるかもしれません。非常に安い値段でどんどん買えてしまう。次から次へと変わったものが着られればいいみたいな感覚があるのだろうと思うのです。つまり、今の子どもたちの衣食住の課題は私たち大人の課題でもあるだろうと思うのです。ですから、それにこたえられていくような教科書を子どものうちから使わせたいというところがありました。

それで、2社がありますが、本当に甲乙つけがたいのですが、どちらか選定しないといけませんので、東京書籍を候補にしました。東京書籍は、今申し上げた課題のところで言うと、最初のほうに「食育チェック」とか、「環境チェック」とか、大きなテーマを見開きでぱっとつかめるような感じの工夫があるというのが一つ特色かなと思うのです。あと、ほかの問題についてはほとんど遜色ないと思うのです。具体的に申し上げれば、ミシンの使い方などは非常に事細かに書いてあるのですが、あるいは調理実習のやり方、そういう流れが子どもたちにわかりやすいかどうか。あるいは、ページを追って活動が示されているのですけれども、子どもにも先生にもわかりやすく学びやすくなっているか。そのようなことを重点的に見ました。そして、東京書籍のほうを採択候補といたしました。

以上です。

指導室長

続きまして、保健でございます。

保健につきましては、保健・安全について適切に学ぶことができるかという点で議論がなされました。その中で、東京書籍と学研の2者について議論が集中いたしました。記述の丁寧さと内容のバランスがよいなどの観点から、学研が採択候補となりました。

保健については以上でございます。

飛鳥馬委員長

では、保健について補足説明があったら委員からお願いします。

山田委員

保健については、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研という5社から出版されております。昨年4月に学校保健安全法というものが制定されましたので、それを受けまして、例えば地域での保健所とか保健センターとの情報交換とか、そういったことがすべての教科書に記載されております。

私は、全般を通じて残念だなと思いましたが、今までの教科書の中で、例えば日本でふえていますエイズについてなどの記載が少し弱くなっているかなと。逆に、去年はやりました新型インフルエンザなどはどの教科書も掲載されています。私たち人類の歴史は感染症との歴史と言っても過言ではないと思うのですけれども、新興感染症とか再興感染症などの取り上げ方は今後の課題にはなってくるのではないかなと思います。

また、中野区では、教育ビジョンの中でコミュニケーション能力と体力の向上ということを挙げておりますが、そんな中で、保健の授業そのものが3・4年生で年間8時間程度、5・6年で16時間程度と比較的少ない時間数でございますが、そういった中では、まとまった指導ができるような教科書ということが一つの視点にはなるかなと。

一方では、書き込みができるような教科書もどうかなという議論がありまして、例えば大日本図書とか学研などはその書き込み欄が比較的多いという印象を受けております。

また、他の教科との関係でございますけれども、どの教科書も5年生の理科の教科書の中に胎児の成長発育の図をイラストで大きく取り上げております。メダカの誕生との関係でかなり充実した記載となっております、その内容は素晴らしいものではないかなと思いますけれども、そこの関連の中では、例えば「新しい命」ということで、学研などはそういった取り上げ方がされておまして、ほかの教科との連携がとれているような気がいたしました。

今、子どもたちを取り巻く心の問題、健康の問題は非常に大きな変化があらわれているわけで、5年で学ぶ「心の健康」ですとか、6年で学ぶ「病気の予防」など、どの教科書も学習指導要領の指導内容に即している内容であったと思っております。ただ、思春期の心の問題やそのストレスに対して、1ページをうまく開いて使えるということの記載が具体的に述べられている学研の記載方法が素晴らしいのではないかというご意見をいただきました。

また、全体として、学研のものがいわゆるヘルスプロモーションの考え方を基本にされているということ。また、言語活動のための話し合いや記述、発展などの活動が多く表現されておりまして、子どもたちにとって学びやすいのではないかとということが意見として出ておりました。

私からは以上です。

指導室長

ありがとうございました。

それでは、資料がございますが、採択一覧表の1ページをごらんいただきたいと思えます。小学校の採択候補について確認をさせていただきます。

まず、国語でございますが、光村図書出版株式会社、書写・東京書籍株式会社、社会・教育出版株式会社、地図・株式会社帝国書院、算数・東京書籍株式会社、理科・教育出版株式会社、生活・教育出版株式会社、音楽・株式会社教育芸術社、図画工作・開隆堂出版株式会社、家庭・東京書籍株式会社、保健・株式会社学研教育みらいでございます。

それでは、続きまして、小学校の特別支援学級の教科用図書でございます。今ごらんいただきました資料の2ページ、それから、3ページから5ページがその部分に当たります。

まず、2ページでございますけれども、文部科学省の著作教科書ということでここに載せてございます。いわゆる「☆本（ほしぼん）」と言われるものでございます。資料でございます算数につきましては、発行者がまだ未定ということでそのような表記をさせていただいております。それから、3ページから5ページにつきましては、臨時会でご協議いただきました附則第9条本につきましては種目ごとの一覧というふうにさせていただいております。

続きまして、中学校で使用いたします教科用図書でございます。お手元の資料6ページになります。採択がえをいたしました昨年度のものを原則4年間使用するという事になってございますので、現在使用するものをまた採択するという事になります。ただ、平成24年度の新教育課程全面実施に伴いまして、現行の教科書につきましては来年度全面改訂の予定ということでございます。

続きまして、中学校の特別支援学級で使用いたします教科用図書でございます。資料の7ページと8ページ、9ページでございます。小学校同様、文部科学省が著作権を有するものについて、国語、算数、音楽の「☆本（ほしぼん）」が挙げてございます。また、8ページから9ページにつきましては、ご協議いただきました附則第9条本を種目ごとの一覧に

してございます。

第32号議案についての説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

飛鳥馬委員長

ただいま上程中の第32号議案ですが、最初に、教科・科目別のご意見をいただきました。来年の中学校の教科書、特別支援学級の教科書とたくさんありますが、全部一括して第32号議案でございます。その第32号議案につきまして質疑がありましたらお願いいたします。

大島委員

ちょっと指導室長に質問なのですが、今回、中学校の教科書の採択もしなければいけないというのはどういう理由なのでしょう。

指導室長

教科書につきましては毎年採択をいただくということになりますが、採択替えのときには採択協議をしていただくということになります。昨年、採択協議をしていただきまして、原則として採択協議をして4年間使用するわけですが、今回の教科書につきましては、平成24年度から新教育課程全面実施に伴いまして、来年度、また中学校が採択替えという予定でございます。

飛鳥馬委員長

そのほか質疑はございますか。

山田委員

一時期、養護の学校の中で少し行き過ぎた性教育のことがありまして、東京都教育委員会がいろいろ指導を示された経過がございますが、現在、特別支援教育の中で使っております保健の教材の中で、例えば現場で特別にそういったものに対して何かご意見がありましたら、お聞かせいただければと思います。

指導室長

特にそのようなご意見はございませんでした。

飛鳥馬委員長

ほかにはご意見、質疑どうでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法により採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第32号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いいたします。

(全員賛成)

飛鳥馬委員長

全員賛成ですので、原案どおり決定いたします。

<日程第2>

飛鳥馬委員長

続きまして、日程第2、第33号議案「教科書採択に関わる教育委員会会議録の公開について」を上程いたします。

説明をお願いいたします。

副参事（教育経営担当）

それでは、ただいま上程されました第33号議案「教科書採択に関わる教育委員会会議録の公開について」、提案理由の説明をさせていただきます。

教科書採択に関する審議をいたしました教育委員会の会議は、教科書採択の公正を確保するという趣旨から、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第10条で「採択が行われる日の前日まで非公開とする」と規定されてございます。この規定に基づきまして非公開で審議を行ってまいりました。本日、平成23年度使用教科用図書の採択がなされましたので、今まで非公開で審議をしてきた教育委員会の会議録につきまして公開をしていく必要がございます。そこで、非公開の教育委員会の会議録の公開については、中野区教育委員会事案決定規程により教育委員会において決定をする必要があることから、お手元の議案のとおり、非公開で行われました延べ5回の教育委員会の会議の会議録につきまして、個人情報に関する部分等を除きまして公開する決定をお願いしたいと思います。

なお、公開の時期についてですが、今後、会議録の作成のために時間が必要になりますので、会議録ができ上がり次第公開するというところをご確認をいただきたいと思います。会議録ができるのはおおむね9月の中旬になろうかと思っております。

以上、よろしくご審議をお願いいたします。

飛鳥馬委員長

それでは、ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いします。

よろしいですか。公開の方法はどんなふうに考えていますか。

副参事（教育経営担当）

会議録を区政資料センターで公開します。あと、中野区教育委員会のホームページでも公開いたします。また、調査研究会の資料等、一連の資料に関しましては指導室のほうで、

会議録と合わせて一括して公開をするということでございます。

飛鳥馬委員長

選定調査委員会、調査研究会がありますので、教科書採択関連の資料は指導室にありますのでということですね。

ほかにはどうでしょうか。よろしいですか。

ないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法によって採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第33号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

飛鳥馬委員長

全員賛成ですので、原案どおり決定いたします。

以上で、議決案件の審査は終了しました。

<報告事項>

飛鳥馬委員長

次に、報告事項に移ります。

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

私のほうからですが、7月16日の定例会を欠席しましたし、しばらく教科書採択のことをやっておりましたので、定例の教育委員会でお話しする時間がありませんでしたけれども、一つは、7月5日の南中野中学校の体育館及びプール開きに参加してきました。元オリンピック選手をお呼びして記念講演並びに模範演技をさせていただきました。南中野中学校は、ご存じのように統合校でありまして、子どもたちが学ぶのにちょっと不自由をしていた期間がありますが、非常にきれいにリニューアルして、特に教育委員会としては、予算のない中、プール改修は非常に困難であるということできたわけですが、地域や学校、子どもたちの強い要望で、ぜひプールを新しくしてほしいということがありまして、教育委員会としても新しくつくことにしました。南中野中学校のプールは新しくなりましたが、2階の高さにありまして、屋根が開閉式になっていまして、風よけがあつて、暖かくて、9月いっぱいぐらいまで泳げるというプールです。そういう屋根があいたりすること

と、2階で、周りがガラス張りのような感じで、眺めがよくて、学校のプールと思えないような非常に素晴らしいプールができたなど。子どもたちも大変喜んでおりました。

それから、塔山小学校の学校訪問で子どもたちとの対話集会に教育委員全部が参加しました。それから、新しくできたキッズ・プラザ塔山という、学校の中にある、子どもたちが放課後過ごす場所。都内の子どもたちは、遊ぶのも場所がないとか、友達がないとか、時間がないとか、いろいろな課題があるわけですがけれども、その中で学校で遊べたらこんないいことはないだろうということで、今、中野区で進めている施策の一つですがけれども、そこへ行って、担当の職員と子どもたちに利用勝手を聞いてきました。子どもたちは非常に喜んでいまして、学校で遊べる、いつでも遊べる、好きなだけ遊んで帰れるという自由さが非常にいいと。サッカーができるとか、野球ができるとか、いろいろなことを言っていました。寝転んで本を読むこともできるとかということで喜んでいました。非常にたくさん子どもたちが利用しているようです。よかったなと思っております。

私のほうからは以上です。

山田委員、お願いします。

山田委員

7月22日になりますけれども、私が学校医を務めております谷戸小学校において、岩井臨海学校の前の健診がありましたので出席いたしました。ことしは、7月に入って余り雨がなかったものですから、子どもたちは随分泳ぎ込みをいたしまして、岩井に参加する6年生はほぼ真っ黒でした。行く前から、海に行ってきたのではないかと思うぐらい子どもたちが一生懸命泳ぎ込んだ姿を拝見して、非常に頼もしく思いました。

実は数年前から中野区では、学校医は移動教室等には参加していないので、同行する看護師が事前に一緒に健診をすることになっていたのですがけれども、何かの手違いで看護師がその日は来ておりませんでした。事務局のほうでもう一度確認をしていただければと思います。

幸いなことに、その後、23日から25日まで、子どもたちは岩井のほうに行きまして、何と60分ぐらいの遠泳をほとんどの子どもが経験できたということで、校長先生が「ことしは非常に有意義な岩井臨海であった」ということでもあります。今、遠泳をやっている区そのものが少ない実態もありますけれども、現場の先生方はこの日のためにOBとかいろいろマンパワーを集めましてやっている経過があります。今後どのようにしてこれをやっていくべきなのかどうか、もう一度議論しなければいけないかなと思いましたが、子どもた

ちは全員元気に帰ってきたという報告を受けましたので、安心した次第でございます。

7月29日ですけれども、東京都が7月のこの週に毎年やっております健康づくりフォーラムという取り組みがございまして、東京都庁の第一本庁舎5階の大会議室で開催されました。ことしは、テーマ的には、健康づくりフォーラムの中でも歯科の健康ということがクローズアップをされておりました。中でも、「噛むかむクッキング」というのが基調講演でありました。こういう職種の方がいらっしゃるんだなと思ったのは、歯学博士でいらっしゃいますけれども、「健康咀嚼指導士」と言って、かむことについて研究されている方が、クッキングの中で、かむということを意識するような献立を披露されておりました。かむということが子どもたちの脳の発育に非常に影響を及ぼすということが大きな主眼ではなかったかなと思いますので、もう一度、かむということは大切なのだなと。最近、ハンバーグとか、カレーとか、余りかまなくて済むような食材が多い中で、私たちが育ったころはスルメか何かだったと思うのですけれども、もう一度そういったことを考え直さなければいけないのかなというように考えました。

また、毎年なのですけれども、この健康づくりフォーラムでは、東京都で表彰された学校の表彰校発表がございまして、ことしは北区の稲田小学校と豊島区の西巢鴨小学校から表彰の発表の内容が報告されました。学校の中でいろいろと連携をとりながら、総合的な学習を初め各教科にいろいろちりばめまして健康のことを実践しているという報告がありまして、なかなかすばらしいことをやっている学校があるものだなと感心した次第でございます。

私が所属しています日本産婦人科医会が毎年夏に「性教育指導セミナー」という全国大会をやっております。今年度は、7月31日、8月1日にかけて三重県の津において行われまして、今回で第33回を迎えました。実は三重県は、一時期、10代の人工妊娠中絶がなかなか下がらないというか件数が多いということで非常に危機感を持った県でございます。そんな中での取り組みで、この日は保健師さんですとか学校の養護教諭とか、多くの関係者が集まって、発表では800人近い出席者があったということでございます。

そんな中で、一日かけていろいろなセッションがあったのですけれども、特別講演の中ではメンタル的なケアのことが出ておりました。10代の行動とか、感情とか、性に向かう背景、心理ということを精神科のドクターが講演をされました。「性に向かうとか性に向かわない子どもたちの背景には、やはり人とのつながりがある。孤独に非常に飢えている子どもたちが、その中で性と出会ってしまったりするケースがある。思春期というのは、お

酒を飲まない酩酊中の者が運転しているようなもので、いつ事故に遭うかわからない」というようなことが発せられておりました。

また午後からは、「きずな」ということをテーマにシンポジウムが開かれまして、例えば警察のほうの方からは、「性犯罪の実態と被害者支援のあり方」。また、その中の基調講演では、中野でもやっていると思いますけれども、いわゆるチャイルドライン、子どもの電話相談から見えてくる性の実態などの詳細なことがありまして、先ほどの話ではないですけれども、「相談できる仲間とかがいないようなときに、どうも性のほうの情動が押さえ切れないといった子どもたちの実態がある」というような話がありました。

最後に、今の日本の少子化問題の中で、性教育そのものは今回の教科書でも出ましたように、理科であったり、保健であったり、大切なことを子どもたちに正確な知識を与えなければいけないということではありますけれども、果たして高校以降になったときに、性行動を本当に抑制していいのかなという話もちらっと出ておりました。といいますのは、一方では、言い方は悪いですけれども、高齢の方たちの不妊の問題も出てきているわけです。これは性教育の問題ではないかと思えますけれども、若い方たちが生み育てる環境が日本ではまだ整っていない。例えば保育室があるような大学は日本には余りない。そういったことの整備も今後は考えていかなければいけないのではないかと。そういうことも、大きな、広い意味での子どもたちへの支援ではないかということがありまして、次年度はそういったことの取り組みについて少し話し合おうというようなことでこの会が終わりました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

大島委員、お願いします。

大島委員

先ほど委員長からお話がありました7月9日の塔山小学校の訪問は、私も一緒に行ってまいりました。午後、6年生の児童との対話集会が大変興味深く楽しかったです。6年生のみんながグループごと、班ごとに分かれて調査・研究の結果発表をやってくれました。例えば「放課後どんな遊びをしているか」とか、「放課後の時間の使い方はどうか」「どんなスポーツをやっているか」とか、テーマはいろいろあったのですが、それを通じて感じたのは、とにかくみんな忙しいと。習い事とか塾だとかにほとんどの子が行っていると言っても過言ではないのではないかと思うのです。夕飯の時間などが9時半、10時になるような子どもさんや、帰宅が遅くなるお子さんが多い。大変忙しく、ハードスケジュール

ルでなかなか大変だなというのが実感でございました。でも、みんなすごくまじめで、将来のこともいろいろよく考えていて頼もしいなというふうに思った次第です。

以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

8月3日火曜日ですが、私が国際短期大学で担当している授業の関係で、沼袋のアンプレラハウスの夏休みボランティアに学生を連れて参加しました。沼袋アンプレラハウスは、西武新宿線の沼袋駅の北口にあります傘の無料貸し出しコーナーを地元の方が平成14年からスタートして運営しているボランティア活動でございます。私が担当している授業、ボランティア活動の履修者14人、そのほかに地元の中野工業高校、緑野中学校、第七中の生徒さん。中野工業さんが10人ぐらいですか、緑野中、七中はちょっと少なく、2校合わせて5、6人ということで、ことしはちょっと寂しかったのですけれども。私も参加して、地元のご年配の方と一緒に傘の修理ですとか選別ですとか、そういった作業を午前中いっぱいやりました。年配の方との交流ですとか、あと、場所は沼袋の地域センターだったのですが、あそこは障害者福祉会館も兼ねていますので、ハンデがある方も自分ができる範囲内でお手伝いして、非常に意義がある。短大生でも授業としてお願いしているところなのですが、半日ですけれども、中学生ぐらいがやると非常にいいと思うので、来年はぜひもっと参加するように後ほど校長先生にはお話ししたいなと考えております。

あと、本日なのですが、これも私が担当しておりますインターンシップの授業の関係で、中野区の国際交流協会さんに8時半にお邪魔しまして、9時半までZEROのほうにいたのです。ことしは、ミャンマー出身の学生のインターンシップをお願いしまして、最初に、常務理事にいろいろお話を聞いた後、きょうから夏休みの子ども日本語クラスということで、それにあわせてのインターンシップをお願いしまして、6日、9日、11日、16日、18日ということで、ボランティアの方がたくさん無報酬で来て、中野区に住んでいる小学生や中学生に日本語を教えていただく。ふだんからもやっているのですが、集中でやるということは非常に意義がありまして、子どもたちもここでぐっと伸びますし、また、やりがいもあるのではないのかなと。本当に頭が下がる思いでございます。長男の同級生は、小学校2年ぐらいに中国から転校してきて、最初はほとんど日本語がわからなくて先生もちょっと困ったのですが、国際交流協会の方のおかげで、それ以後、非常にスムーズに日本語学

習ができたのでよかったなと思っているところでございます。

インターンシップでもちょっとお世話になるということで、これからも教育委員会としても支援していきたいと思えますし、国際短期大学としてもその交流をしていきたいと考えているところでございます。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

教育長、お願いします。

教育長

7月16日、この日は次の日から夏休みに入るという前日だったのですけれども、七中の公開授業を見学してきました。公開授業と言いましても、七中は東京都教育委員会から安全教育推進校ということで研究指定校を受けておりまして、実際は生徒が参加する防災訓練でした。9時45分から11時35分ということで約2時間にわたって、避難所の運営の仕方ということで、マンホールトイレとか防災トイレの組み立て。それから、体育館の中で避難所生活を送るために、今、区は間仕切りを用意しているのですけれども、段ボールで間仕切りをつくる組み立て。それから、校庭では、起震車や煙体験。体育館の別の一隅では、三角巾やAEDの使い方。それから、校庭の裏のほうでは、消火器とか軽可搬ポンプの操作ということで、地域の方々がやる防災訓練のメニューを一通り中学生も体験していました。ここには、東京都教育委員会から担当の指導主事の方、野方消防署、区の防災担当、PTAや町会の方ということで、大勢の方に応援をお願いしておりました。地域の方のお話で、「中野区の場合は、夜間人口のほうが多くて昼間人口が少ないということで、いざというときに中学生も頼りにせざるを得ないというか、そういう意味では一番活躍してもらえる、期待できる存在なので、こういう体験をもっともっと積んで一緒にやっていきたい」ということでした。この日は、梅雨明けしてすぐだったので、今も暑いのですけれども、猛烈に暑いときで、子どもたちも体が暑さになれていないので心配だったのですけれども、特別支援学級のD組さんも同じように参加をしまして、ぐあいが悪くなるお子さんは1人もなく、頑張ってやっていました。

それから、7月20日、中野区の本三宮前町会という、東部地域センター管内で、宝仙寺の周辺の地域だと思うのですけれども、その町会はたまたま町内会のエリアに実践学園、宝仙学園、堀越学園と私立の学校が三つありまして、ここも防災訓練にその3校にお声をかけて、生徒さんが町会の方々と一緒に参加をするという取り組みがありました。防災訓

練のメニューは、さきほどの七中でやったメニューとほとんど同様のメニューなのですが、
れども、この町会の防災訓練には地域の小・中学生も参加していましたので、そこに毎日
通ってくる私立の3校のお子さんと一緒に、高齢者の方々や町会の役員の方が、皆さん参
加してやられたということで、地域の横のつながりを町会の方々が一生懸命つくってくだ
さっているという姿を拝見しました。こういう日常的なきずなから、いざというときの働
きになるのではないかなということで、教育委員会としてもこうした地域の取り組みも情
報収集しながら支援をしていく必要もあるなというふうに感じたところです。

以上です。

飛鳥馬委員長

それでは、各委員からの報告につきまして、質問、あるいは発言等がありましたらお願い
します。

山田委員

今、教育長からお話がありました七中の公開授業ですけれども、ことしも9月5日です
か、たしか新井小と九中を拠点場所として防災訓練が行われるので、私も医師会の関係で
出席することが多いのですけれども、何か少し形骸化しているということがあるのと、そ
のときに子どもたちの姿が余り見えないのですね。多くの避難所は学校の体育館を充てる
こともあるし、先ほどおっしゃったように、夜間人口の問題があると、地域にいる方たち
にお手伝いいただくことが主眼になるので、特に七中の子どもたちがそういったことに参
加できていろいろなことを学ぶということは大切であったと思うのです。ですから、そう
いった取り組みを各中学校区ぐらいに年に1回ぐらいは地域の方々と一緒にやるようなこ
とを考えたほうが本当の意味の防災訓練という形になるのかなという気がして、すばらし
い取り組みかなと思います。今、地域の中で疎遠になっているので、せめて防災という視
点ではそういったことが大切ではないかなと思ひまして、すばらしい試みではないかなと
思いました。

飛鳥馬委員長

ほかはどうでしょう。

では、私のほうから。直接の報告はなかったのですが、2点事務局に聞きたいと思うの
です。

特に中学校の部活等で熱中症対策ということで、中野では、最近光化学スモッグという
のが出ているかどうか。屋外での部活等がどうなっているかというのが1点。

もう1点は、プール事故がまたありましたね。一昨年だったでしょうか、大分点検していただきましたけれども、プールの事故を起こさないための点検等がどうなっているか。

この2点をちょっとお聞きしたい。

指導室長

まず、熱中症のことです。日常的な注意喚起をしておりますが、今のお話のように、東京都教育委員会、文部科学省からもいろいろ通知が出ておりますので、それに基づいて指導いただいているところです。ただ、部活につきましては、炎天下での指導がございまして、小まめに休憩や水分補給をとるようという指導していることと、あわせて、何か変化があればすぐに中止をすること、救急車を呼ぶ等の対応をするということ。

もう一つ、光化学スモッグのお話ですが、学校情報、それから注意報が出たときには屋外の活動は中止するというように動いております。

あと、プールの施設につきましても、日常的な点検、特に夏季休業中の水泳指導については、職員が来たときにまず全部ちゃんと点検をするということ、複数の目で見るということを確認をしているところでございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。よろしいですか。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

ほかに質問がないようでしたら、事務局報告に移ります。

事務局報告はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

飛鳥馬委員長

それでは、以上で、本日の日程はすべて終了しました。

これもちまして、教育委員会第24回定例会を閉じます。ご苦労さまでした。

午前11時04分閉会